

第3期

# 下京区基本計画

「住んでよし、  
働いてよし、  
訪れてよし、  
学んでよし」の下京区

京都市下京区役所

# ごあいさつ

## 参加と協働による持続可能なまちづくりを



京都市長

門川 大作

「市民・区民が主役のまちづくり」  
私は市長就任以来、この方針を軸に市政に邁進してまいりました。そして、未曾有のコロナ禍の中、改めてこの言葉の大切さを噛み締めています。

コロナ危機と、収支不均衡の構造が続いてきたことによる財政危機。本市は現在、そんな“2つの危機”に直面しています。同時に、人口減少や地

球温暖化などさまざまな社会課題にも立ち向かっているところです。区民の皆様の心強いお取組の一つ一つが、困難を乗り越え、より良い社会を目指すための大きな力となります。

この度策定した「下京区基本計画」は、笑顔あふれる下京へ

の礎となるもの。本計画を基に、それぞれの地域の魅力やすばらしい「地域力」、「文化力」を、暮らしの豊かさとまちの活力につなげていきます。ひいてはそれが京都市全体の未来を創ります。「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に、共々に力を尽くしてまいりましょう。

最後になりましたが、本計画の策定に御協力いただいた方々、貴重な御意見を寄せくださいました全ての皆様に、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

## 下京区の「地域力」を結集し、ともに進めてまいりましょう！



下京区長

山本 亘

この度、令和3年度から令和7年までの5年間の下京区のまちづくりの指針となる「第3期下京区基本計画」を策定しました。

策定に向け、「京都市下京区民まちづくり会議」や会議の各部会で活発に御議論いただきました皆様、誠にありがとうございました。

また、パブリックコメント等を通じて、計画案に対しまし

て、貴重な御意見をいただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

下京区では、町衆の自治の精神が連綿と受け継がれ、今も区内23学区において、自治会・町内会やさまざまな団体により、工夫を凝らしたまちづくり活動が進められています。

本計画は、この「地域力」や「人間力」が最大限に発揮され、

各主体による「自分ごと、みんなごとのまちづくり」が前進し、持続可能で豊かな地域づくりを実現することをめざしています。

京都駅西部エリアや東部エリアの活性化を、令和5年の京都市立芸術大学移転を契機に更に進め、クリエイティブエリアを創出し、下京区の力で京都全体の元気をけん引すること等も掲げています。

京都は今、コロナ禍と財政問題という大きな危機に直面しています。こういうときあるからこそ、下京区の宝である、「歴史力」、「文化力」、「創造力」の真価が発揮できる好機でもあると考えます。

「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」。未来に誇れる下京区のまちづくりを、皆様、御一緒に進めてまいりましょう。



# 目次

---

① 計画の位置付け .....	1
② 策定に当たっての基本的な考え方・方針 .....	2
③ 下京区の特徴・魅力 .....	3
④ 下京区の現状・課題と求められる方策 .....	4
⑤ 下京区の東西エリアで進むまちづくりと今後の方向性 .....	7
⑥ 下京区がめざすまちの姿・スローガン .....	9
⑦ 重点戦略 .....	10
戦略1 人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり .....	11
戦略2 はぐくみ文化の創造・推進 .....	13
戦略3 誰もがいきいきとくらせるまちづくり .....	15
戦略4 環境と調和したくらしが根付く持続可能なまちづくり .....	17
戦略5 危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり .....	19
戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり .....	21
⑧ 計画の推進に当たって .....	24
⑨ 参考資料 .....	26
計画策定の経過 .....	26
京都市下京区民まちづくり会議 委員等 .....	27
京都市下京区民まちづくり会議部会 委員 .....	28

※区の基本計画等の情報は、以下のページからも御覧いただけます。

○京都市下京区 区基本計画ページ(これまでの計画内容、進捗状況など)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/shimogyo/category/124-1-0-0-0-0-0-0-0.html>



# 1. 計画の位置付け

下京区では、平成23年3月に策定した「第2期下京区基本計画」(計画期間:平成23年度～令和2年度の10年間)に基づき、「人と人との絆をつなぐ」、「まちの資源や魅力をつなぐ」、「歴史と伝統を未来につなぐ」の各テーマにおいて、めざすまちの姿の実現に向か、区民の皆さんとともに計画に掲げる取組を着実に進めてきました。

この間、各地域で工夫を凝らしたまちづくり活動が展開されるとともに、京都駅西部エリアでは、梅小路公園を中心に水族館・鉄道博物館や新駅の開業などにより、まちにぎわいが創出され、京都駅東部エリアでは京都市立芸術大学(以下「京都芸大」という。)の移転が決定し、文化芸術を基軸としたまちづくりが進んでいます。また、平成31年3月に下京区制140周年を迎えるにあたり、区民や事業者の皆さんの参画・協力の下、多彩な記念事業\*が展開され、「自分ごと、みんなごとのまちづくり」が大きく前進しました。

一方、地域活動の担い手の高齢化や少子化の進行、観光客の増加とそれに伴う宿泊施設の急増、災害の頻

発、新型コロナウイルス感染症拡大など、地域を取り巻く新たな課題も生じており、それらの解決に向け、各主体が一層連携と協働を進めていく必要があります。

第3期下京区基本計画は、これら課題への対応と、第2期計画で取り組んだ成果やこれまで培われた区民、団体、事業者等の絆を生かし、下京区制150周年、そして100年先の未来に向けて、下京区のまち全体の活性化につながる取組をより一層推進するため、下京区民まちづくり会議や同部会等での議論を踏まえ策定するものです。

なお、この計画は令和7年までの京都のグランドビジョンである「京都市基本構想」に基づく地域別計画であり、全市的観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」と同列・相互補完の関係となっています。基本構想の終期が令和7年であり、市基本計画と一体となって政策を進めていくため、計画期間は市基本計画の計画期間に合わせて令和3年度から令和7年までの5年間とします。

## 世界文化自由都市宣言(昭和53(1978)年10月15日)<都市理念>

## 京都市基本構想(平成13(2001)年～令和7(2025)年)<市政の基本方針>

**京都市基本計画<部門別計画>**  
(第3期)  
(令和3(2021)年度～令和7(2025)年)

**下京区基本計画<地域別計画>**  
第3期 下京区基本計画  
(令和3(2021)年度～令和7(2025)年)

市と区の計画は同列・相互補完関係

## 分野別計画

- 京都駅西部エリア活性化将来構想(平成27年度～令和6年度)
- 京都駅東南部エリア活性化方針(平成29年度～令和6年度)
- 京都駅東部エリア活性化将来構想(平成31年度～令和10年度)

\*下京区140周年記念事業:下京区制140周年(平成31年3月)を迎えるに当たり、平成30年から「100年先の未来のために　はじめよう!自分ごと、みんなごとのまちづくり」を共通テーマに、区内各地で実施された事業。

## 2. 策定に当たっての基本的な考え方・方針

### ◎京都市基本計画に掲げる、「レジリエンス※」や「SDGs」、「文化力」を分野横断的にとらえ、「人口減少」、「少子化対策」等に取り組み、持続可能で豊かな地域社会を構築します。

京都市基本計画では、人口減少や、レジリエンス、SDGsの重要性の高まりなど分野横断的な時代潮流を踏まえ、長年にわたり育んできた市民力・地域力・文化力を生かし、生活者を基点に、参加と協働で未来を切り拓くことを都市経営の理念にすえています。

下京区基本計画においても、それらの理念を計画全般に反映させ、持続可能な地域づくりを目指します。

#### SDGsの目標達成に向けて

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年に国連の持続可能な開発サミットにおいて採択された2030年までに達成すべき持続可能な開発目標のこと、17のゴールと169のターゲットからなります。

「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を計画全般に行きわたらせるとともに、計画の各戦略ではSDGsのどの目標達成に貢献するかを示しています。



### ◎下京区誕生140周年記念事業を通して培われた区民、団体、事業者の絆を生かして、「自分ごと、みんなごとのまちづくり」をより一層推し進め、次の150周年に向けて京都のまち全体の活性化につなげるものとします。

下京区は、平成31年3月に区制誕生140周年を迎えるました。これを記念して、「100年先の未来のために はじめよう!自分ごと、みんなごとのまちづくり」を共通テーマに、200を超える多彩な記念事業が、区内23学区、団体、企業等の協力により行われ、連帶の輪が大きく広がりました。これらの成果を、次の150周年という節目に向けて、京都のまち全体の活性化につなげられるよう取り組みます。

### ◎「ウィズコロナ」「ポストコロナ」を見据えた「しなやかな強さ」を兼ね備えた地域づくりを推進します。

祇園祭がさまざまな困難による中断を乗り越え、復活、今日まで継承されてきたことに象徴されるように、下京区民はこれまで幾多の困難を克服し、町衆による自治の精神の下、地域の伝統、祭を継承してきました。

令和2年、新型コロナウイルス感染症拡大という、誰もが想定し得なかった重大な危機に地域は直面しました。人と人とのコミュニケーションはままならず、地域の活動や人々の生活、精神は大きな影響を受け、下京区内でも飲食店、商店や観光関連をはじめとする産業は存続の危機に立たされました。

治療薬やワクチンが普及するまでのウィズコロナ社会から感染症が収束したポストコロナ社会を見据え、また、近年激甚化する災害等に対し、下京区民の困難を克服する「共助の力」で、これらの危機を乗り越え、しなやかで力強い持続可能な地域づくりを区民の皆さんとともに進めています。

※レジリエンス：さまざまな危機からの回復力、復元力、強靭性（しなやかな強さ）を指す。

# 3. 下京区の特徴・魅力

## ① 京都のにぎわいの中心地

**1** 下京区は市内11区で最もコンパクトな区域に、1日63万人の乗降客\*が行き交う京都の玄関口である京都駅をはじめ、四条烏丸、四条河原町など京都市の商業・ビジネスの中心地を擁し、公共交通網が発達し移動に大変便利な地域です。東には鴨川、西には梅小路公園があり、豊かな自然にも恵まれています。

**2** 京都駅西部エリアの梅小路公園には京都水族館や京都鉄道博物館など広域的な集客施設のほか、JR梅小路京都西駅や商業・宿泊施設等の新規開業により新たなにぎわいが創出されています。一方、京都駅東部エリアは京都芸大の移転を控え、文化・芸術を核とした新たなまちづくりが進められています。

## ② 23学区からなる地域コミュニティ

**1** 下京区は23学区で構成され、各学区では自治連合会、市政協力委員連絡協議会、各種団体等の活動の下、自治会、町内会を中心とした地域コミュニティが形成され、豊かな日常生活やまちづくり、防災など住民生活の安心安全を支える基盤となっています。

**2** 東部は番組小学校\*が創設された学区を基礎に古くから形成されたまちである一方、西部は住宅・マンションの開発等により、若い世代が流入し、人口増加が顕著な地域です。各学区では、歴史文化資産等まちの資源・魅力を生かした取組や地域課題解決に向けたまちづくり活動が活発に展開されています。

## ③ 伝統が息づく文化

**1** 祇園祭の山鉾町や番組小学校に代表される町衆の気概・精神が連綿と受け継がれ、地域の文化、教育、産業、コミュニティの形成に生かされています。

**2** 東西両本願寺など全国に宗派寺院を擁する仏教の本山が多く立地し、わが国宗教文化の一大拠点となっており、仏教関連の伝統産業品を扱う店等で門前町が形成されています。



## ④ 京都経済をけん引する産業

**1** 生鮮食料品等の流通を担う基幹的インフラである京都市中央市場があり、京都駅や四条通周辺には京都の主要百貨店をはじめ商業施設が集積。京都経済の一翼を担っています。

**2** 町衆の生活文化や宗教文化を支えるものづくりや商業の拠点として発展した町であることから、伝統産業を守り、つなげる職人や商店が多く存在します。

**3** 京都経済活性化に向けた新たな拠点として、「交流と融合」の場を提供する京都経済センターが平成31年に開館。また、多くの産業支援機関が集積する京都リサーチパークや創業・イノベーション拠点「淳風bizQ(じゅんぷうびずく)」を中心として、次代を担う京都企業を創造する「スタートアップのまち」としての役割も担っています。



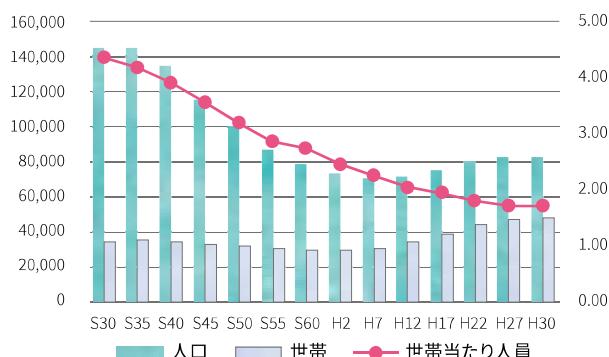
\*1日63万人の乗降客：京都駅における平成30年のJR西日本、近鉄、市営地下鉄の合計人数(JR東海の新幹線を除く)。

\*番組小学校：明治2年、京都の町衆が主体となって地域(番組)ごとに創設された日本最初の学区制小学校(64校が開校)。

# 4. 下京区の現状・課題と求められる方策

## ① 人口・世帯

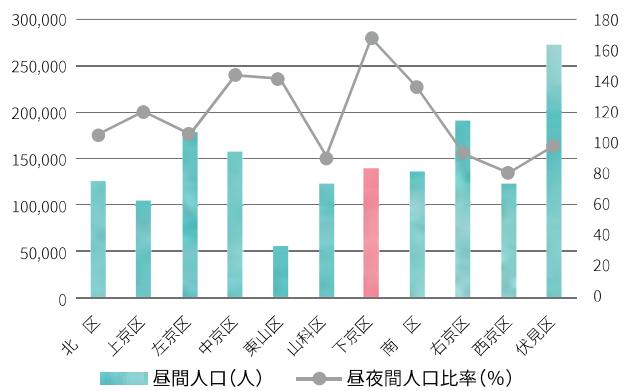
### ● 人口・世帯



出典:各年国勢調査、平成30年は京都市による推計人口(京都市統計書)より作成

- 人口は、昭和30年から半減し、平成7年を境に人口増加に転ずるも、近年は横ばい。
- 世帯数は増加しているものの、世帯当たりの人員は縮小が進行。

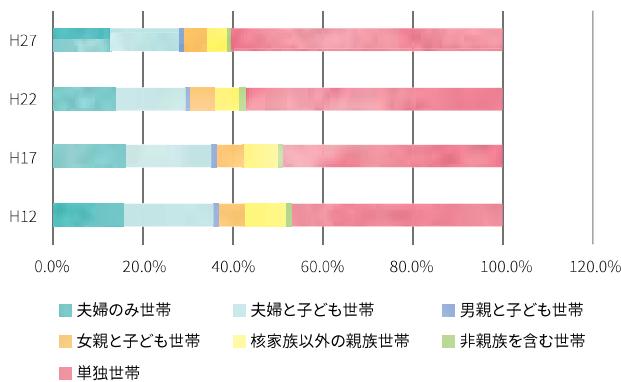
### ● 昼夜間人口比率



出典:平成27年国勢調査より作成

- 昼夜間人口比率は11区の中で最も高い状態が継続。

### ● 家族類型別世帯数



出典:各年京都市統計書より作成

- 世帯類型では単独世帯(一人世帯)が増加。

### ● 住宅の建て方・共同住宅比率



出典:各年国勢調査より作成

- 共同住宅が急増し、平成27年には区内住戸数の70%以上を占有。

## 求められる方策

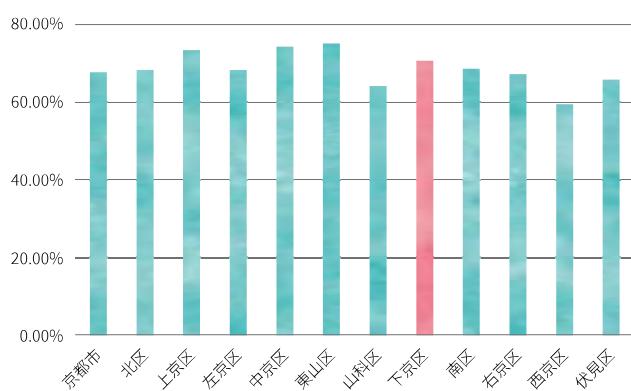
- 他行政区と比べて昼夜間人口比率が最も高く、区外から訪れる人々が地域行事への参加等により継続的に地域に関わる関係づくりが求められます。

- 単独世帯の増加や8050問題※、潜在しているひきこもりについて早期相談につなげる環境づくり、地域や社会からの「孤立化」を防ぐ必要があります。また、災害時の要配慮者への対応や地域での見守り活動を促進することが求められます。

※8050問題:80代の親とひきこもり状態の50代の子が同居する世帯の孤立・困窮化に伴うさまざまな問題。

## ② 地域コミュニティ

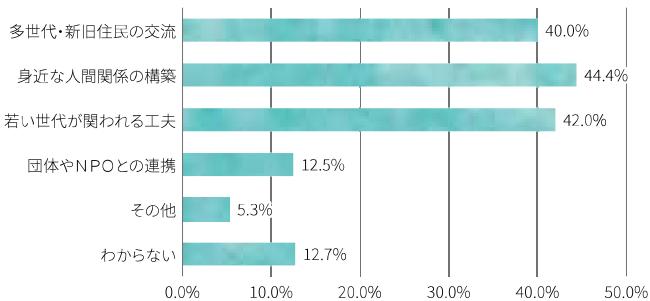
### ●自治会・町内会加入率



出典:京都市「自治会・町内会アンケート(平成30年度)」より作成

- 自治会・町内会加入率は、他の都心区(上京・中京・東山)とともに市平均を上回るもの、近年は低下傾向にある。

### ●コミュニティ活動を維持するために必要なこと(複数回答)



出典:第2期下京区基本計画に関する区民意識調査(平成30年度)より作成

- 「身近な人間関係の構築」「若い世代が関わる工夫」「多世代・新旧住民の交流」のそれに強い期待。

4

下京区の現状・課題と求められる方策

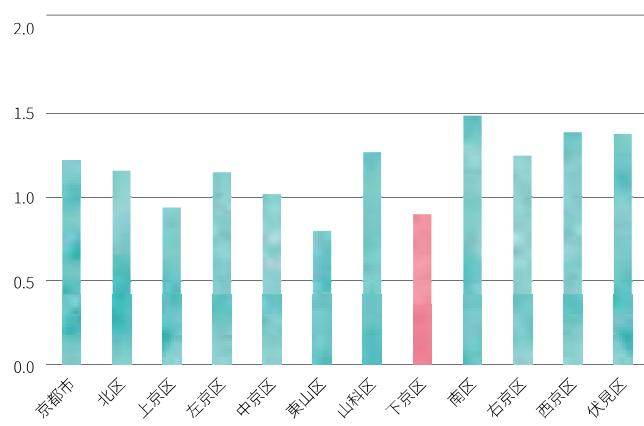
### 求められる方策

- 自治会加入率の低下や担い手の高齢化等により、地域が持つ「共助」の力の衰退が懸念されることから、時代や地域の実情に合った地域活動や次世代の新たな担い手づくりが求められます。

- 自治会活動等においてもリモートワークによる働く世代の地域への回帰の機会をとらえ、若年層のコミュニティへの参加を促進させるとともに、助け合い、支え合いによる共助コミュニティを再興する必要があります。

## ③ 子育て

### ●行政区別出生率



出典:令和元年「京都市の合計特殊出生率」より作成

- 合計特殊出生率\*は、長期に微増傾向、近年は横ばいも令和元年に低下し、東山に次いで低い。

\* 合計特殊出生率:一人の女性が一生に産む子どもの数を表す数値。

### ●下京区の出生率・出生数の推移



出典:平成30年までの出生数は「京都市衛生年報令和元年版」、令和元年の出生数は「人口動態調査(調査年月2019年)」、出生率は「令和元年京都市の合計特殊出生率」より作成

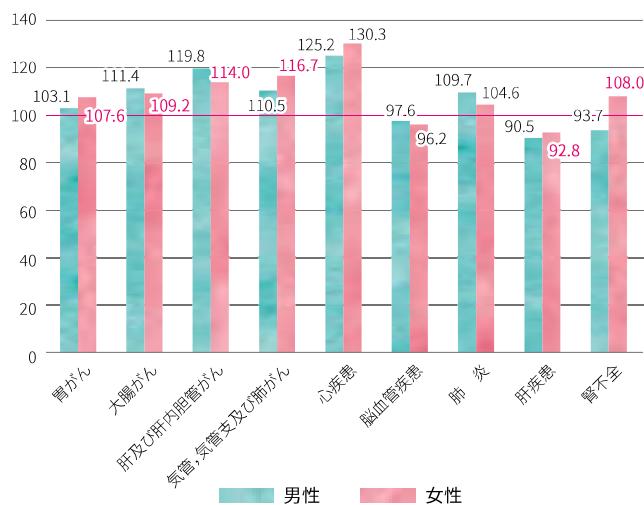
- 出生数は、直近の令和元年が最も少なくており、また、全国、京都府においても統計開始以降最も少ない結果となっている。

### 求められる方策

- 少子化の進行に対し、地域で安心して子どもを産み育てられる環境づくり、子育てしながら働きやすい職場環境づくりなどが求められます。

## ④ 健康長寿

### ●標準化死亡比\*



出典：平成25～29年 人口動態保健所・市区町村別統計より作成

- 心疾患の標準化死亡比は、女性は市内ワースト1、男性は市内ワースト3。

- がんの標準化死亡比は高いが、概ね改善傾向にある。

(参考)全国市区町村別主要死因別標準化死亡比の推移2009～2018年

\*標準化死亡比：全国を基準(=100)とした場合に、その地域での年齢を調整したうえでの死亡率(死の起こりやすさ)がどの程度高い(低い)のかを表したもの。

### 求められる方策

- 心疾患、特に狭心症や心筋梗塞等に加え、がん(胃、大腸、肝臓、肺)などの生活習慣病による死亡比が高く、健(検)診受診率の向上や禁煙推進、適度な運動・食習慣の改善指導といった健康課題への対策が求められます。

## ⑤ 商業・観光

### ●行政区別 卸・小売業の従業者数・事業所数

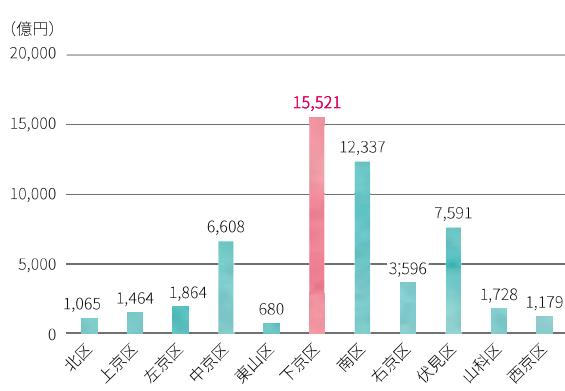


出典：平成28年経済センサス活動調査より作成

- 卸・小売業の従業者数は、全行政区で最も多く、2番目の南区より7,000人以上多い。

- 卸・小売業の事業所数は、中京に次いで2番目に多く、約3,000事業所がある。

### ●行政区別 卸・小売業の年間商品販売額



出典：平成28年経済センサス活動調査より作成

- 卸・小売業の年間商品販売額は、全行政区の中で最も高く、市全体の3割弱を占める。

### 求められる方策

- 卸・小売業の規模が市内一と商業の中心地である下京区は、梅小路公園周辺の賑わい施設の集積や京都芸大の移転等による京都駅西部・東部エリアの活性化のほか、新産業の創出拠点が集積するポテンシャルを生かし、京都全体の活性化をけん引していくことが求められます。

# 5. 下京区の東西エリアで進むまちづくりと今後の方向性

## ● 京都駅西部エリア活性化将来構想の推進

民間の大型集客施設や京都市中央市場の施設整備などが行われている京都駅西部エリアにおいて、「多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまち」を実現するため、「京都駅西部エリアまちづくり協議会」やまちづくり団体を中心に、同エリアの活性化の取組が進められています。

### ① 京都水族館



③

### ② 京都鉄道博物館



②

### ③ JR梅小路京都西駅



③

### ④ 梅小路公園・

### 賑わい施設 (VIVA SQUARE KYOTO)



④

### ⑤ 梅小路ポテル京都



⑤

### ⑥ ザ ロイヤルパークホテル京都梅小路



⑥

### ● 京都市中央市場施設整備に伴い 生み出される賑わいゾーン

### ⑦ (北側) ホテル エミオン 京都



⑦

### ⑧ (南側) 飲食店・ 商業施設 (令和7年頃 開業予定)

## ● 京都・梅小路みんながつながるプロジェクト

京都・梅小路エリア内外のさまざまな企業・団体が力を合わせ、地域と一緒に、同エリアの持続的なにぎわいや、回遊性の向上をめざして活動しています。

## ● 「クリエイティブタウン」化の推進 (梅小路コモンズ、(株)梅小路まちづくりラボ)

## ● 梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会

## 京都駅西部エリア

京都リサーチパーク等の創業イノベーション拠点  
梅小路周辺の賑わい施設の集積

## ● JR 西大路駅北側駅舎の新設による駅の バリアフリー化 (令和4年3月頃開業予定)

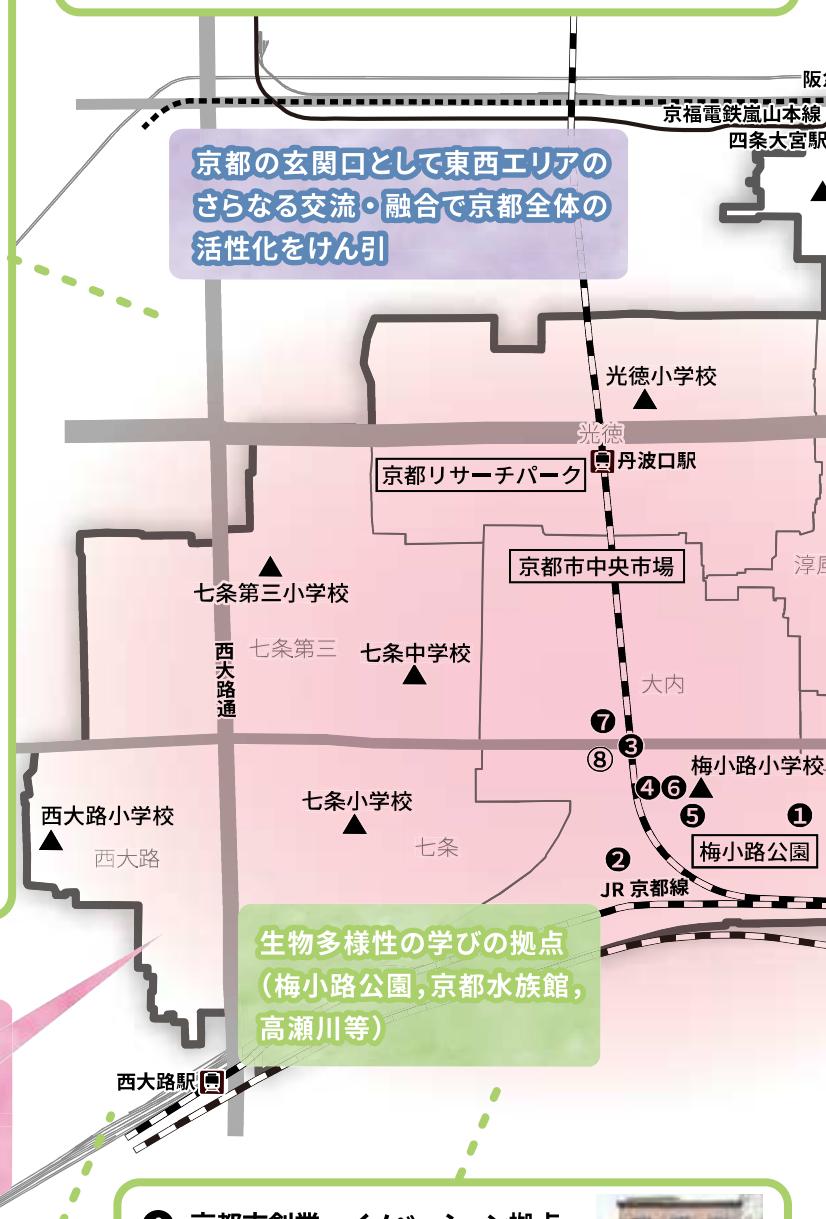
## ● 京都経済センター

京都経済百年の計として、京都の経済団体等が集結し、中小企業を総合的に支援するほか、「交流と融合」の場を提供します。



## ● 四条通歩道拡幅

## ● 雨庭の整備 (四条堀川交差点)



## ● 京都市創業・イノベーション拠点 「淳風 bizQ」(旧下京図書館・ 元淳風小学校活用)



## ● 龍谷ミュージアム

## ● 元植柳小学校跡地活用 デュシタニホテル 自治会活動の拠点等 (令和5年開業予定)



凡例 (●: 完了, 進行中 / ○: 今後予定)

#### ● まちづくり委員会の取組

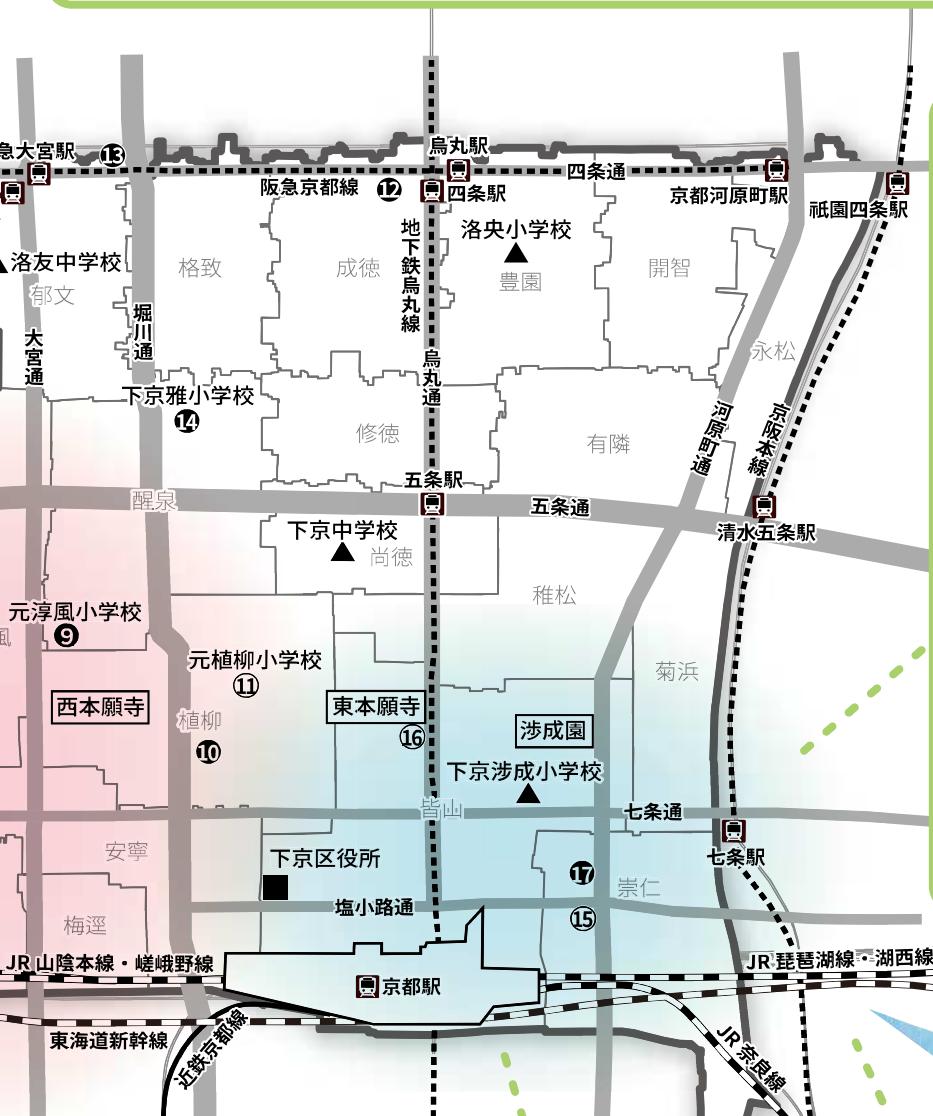
複数の学区で、地域の将来像を共有し、地域課題を解決するため、まちづくり委員会が組織されています。修徳学区では景観や空き家対策、有隣学区では防災・避難所運営や空き家対策を主なテーマとして活動が展開されています。

## ⑯ 下京雅小学校開校

(醒泉小学校と淳風小学校が統合)・移転

### ● 高瀬川再生プロジェクト

高瀬川の水量確保のため、抜本的な修復事業を実施。また、高瀬川きみる会や各学区の高瀬川保勝会など、地域の自主的な保全活動も行われています。



⑯ 東本願寺前における市民緑地整備（令和5年供用開始予定）

緑のあふれる憩いの場、東本願寺門前にぎわいを創出する交流の場となるよう、京都市初の市民緑地としての整備が進められています。



⑯ るてん商店街

- 京都駅周辺浸水対策事業塩小路幹線（下水道）の整備
  - 下京・京都駅前サマーフェスタ

## ● 京都駅東部エリア活性化 将来構想の推進

移転予定の京都芸大と銅駒美工が  
京都のまちとともに発展し、より一層飛躍するとともに、京都駅東部エリアが、文化芸術を創造し、国際的にさまざまな人が交流し、まちがにぎわい、世界に発信する『文化芸術都市・京都』の新たなシンボルゾーンを創出し、「人と人、人と地域がつながるまち」となるよう取組が行われています。

⑯ 京都市立芸術大学及び  
銅駄美術工芸高等学校移転整備  
(令和5年供用開始予定)



## 京都駅東部エリア

## 京都芸大移転を契機とした 文化芸術を基軸としたまちづくり

#### ● まちづくり委員会の取組

菊浜学区では防災や空き家対策、崇仁学区では京都芸大移転に向けたまちづくりをテーマに活動が展開されています。

- 京都芸大を核とした  
崇仁エリアマネジメント

# 6. 下京区がめざすまちの姿・スローガン

## ① めざすまちの姿

### 1 地域の絆・自治の精神が息づくまち

明治2年の番組小学校を誕生させた町衆の人づくりにかける思いと、地域の絆により幾多の試練を乗り越え再生してきた先人たちの自治の精神は、今も下京区23学区に脈々と受け継がれています。それらの歴史と伝統を背景に、地域コミュニティにおいては自助、共助、公助の力が発揮され、地域の絆・自治の精神が息づき、未来に受け継がれるまちをめざします。

### 2 文化・産業で京都の元気をけん引するまち

下京区は、これまで育んできた町衆の生活文化、宗教文化、伝統的産業と新産業の融合する産業文化が息づくとともに、商業施設やにぎわい施設、研究開発拠点や産業支援機関が集積し、国際文化観光都市・京都の玄関口として、京都の活力を担っています。新たなにぎわいや交流、産業、文化を創出し、京都の元気を一層けん引するまちをめざします。

### 3 100年先の未来も区民が誇りに思うまち

100年後の未来を見据えて、より一層「住み続けたい」「働き続けたい」「また訪れたい」「学び続けたい」と思える、魅力あふれる下京区を実現するため、140周年を機に大きく前進した「自分ごと、みんなごとのまちづくり」を次の150周年、さらに100年先の未来に継承・発展させ、いつまでも区民が誇りに思うまち・下京をめざします。

## ②スローガン

「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」の下京区  
～持続可能で活力に満ちた豊かな地域づくりに向けて～

